

コミュニケーション演習 1

【単位数:1.5単位, 授業25コマ】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-12-c, I-13-c, I-14-c, I-15-c, II-1-c, II-2-c, II-3-c, II-5-c, V-5-c)

- ① コンピテンスの「プロフェッショナリズム」「コミュニケーション」を修得するために、グループ学習や能動的学修を通して、医師としての価値観,チーム医療の基本,コミュニケーションの基本的なスキルを理解する。
- ② 演習で多様な人々,場面でのコミュニケーション方法を体験し,医学生として良好なコミュニケーションに必要なスキルを身につける。
- ③ 自らのコミュニケーションスキルについて振り返り,自己の課題を明確にする。
- ④ 他者とコミュニケーションを図るにあたり,自己の性格・価値観の傾向について理解する。

(2) 学修目標

- ① グループ学習を通し,能動的学修の意義と自己の課題を説明できる。
- ② 様々なコミュニケーションを体験し,「話す」「聴く」「伝える」ために必要なスキルを説明できる。
- ③ コミュニケーションを図るうえで,性格や価値観等が異なる相手が対象となることを理解できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	60%	事後課題:40点 演習中の成果物:20点
小テスト	○	10%	演習した項目に対する知識確認
態度	○	30%	演習(ロールプレイ)の他者評価
態度	○	—	演習に対する参加度を評価する(遅刻,居眠り,ゲームや内職は減点の対象とする)。減点は最大20点とする。

出席: 実習を修得するためには,欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

教員と面接の上,補習又は課題・レポートを課す。

実習を欠席した場合は,教員と面接後,補習又は課題・レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

各演習時に,その都度全員にフィードバックする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
チームが機能するとはどういうことか	エイミー・C・エドモンド(野津智子訳)	英治出版	チームコミュニケーションについて理解しやすい書籍である。
診療場面のコミュニケーション	ジョン・ヘリテッジ, ダグラス・メイナード(川島理恵他訳)	勁草書房	会話分析という研究分野からみた医療面接について述べられており, 問い方とその答えについて具体例が多いため, 「目的をもった会話」の重要性を考えるきっかけになる。

6 準備学習(予習・復習)

日常のコミュニケーションについて, 演習前後に振り返る機会を持つこと(1日あたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

シミュレーションセンターにおいて, 全体講義及びグループ学習を行う。

(2) 講義の内容

「話す」「聞く」「伝える」のコミュニケーションスキルの基本を学習し, ロールプレイを行う。